

## ネズミ類登攀防止対策試験について

2022年8月15日 母島自然保護官事務所  
一般社団法人 Islands care

### 1. 目的と方法

オガサワラカワラヒワの営巣地では、ネズミ類による卵やヒナへの捕食影響が指摘されることから、営巣木へのネズミ類登攀防止手法確立のための試験を2022年3月に実施した。餌による事前誘引を施した樹木に対し、登攀防止効果が期待される素材（テフロン、ステンレス）のシートを巻き付け、センサーカメラによる撮影により各素材の登攀防止効果を検証した。なお、実験は母島島内にて実施したため、対象にはクマネズミも含まれた。



### 2. 結果と考察

テフロンとステンレスの双方で一定の登攀防止効果が認められた。両素材を比較すると、テフロンよりもステンレスの方が効果が高いことが示唆された。また、テフロンシートではネズミ類に齧られた痕跡が確認され、耐久性の面でもステンレスが適当であると考えられた。

一方、試験では隣木から細枝を伝ってクマネズミが飛び移る様子が確認されており、登攀防止効果の確保にあたっては単木のシート巻き付けではなく、周辺一帯の樹木に対して対策を施す必要があることが示唆された。

